

教員名	松本 勲武 (MATSUMOTO Isamu)
所 属	理学部化学科構造化学講座
学 位	薬学士(1967 東京大学)、薬学修士 (1969 東京大学)、薬学博士 (1972 東京大学)
職 名	教授
URL / E-mail	isamu@cc.ocha.ac.jp

◆研究キーワード

レクチン・凝集素 / アネキシン / アフィニティー吸着体

◆主要業績

総数 (3) 件

- Beta-2-glycoprotein I and urinary trypsin inhibitor levels in the plasma of pregnant and postpartum women. Masuda J, Suzuki K, Satoh A, Kojima-Aikawa K, Nakanishi K, Kuroda K, Murakami M, Takayama E, Matsumoto I. Thromb Res. 2006;117(3):255-61.
- Gut ischemia-reperfusion affects gut mucosal immunity: a possible mechanism for infectious complications after severe surgical insults. Fukatsu K, Sakamoto S, Hara E, Ueno C, Maeshima Y, Matsumoto I, Mochizuki H, Hiraide H. Crit Care Med. 2006;34 (1):182-7
- Novel carbohydrate-binding activity of bovine liver beta-glucuronidase toward lactose/N-acetyl lactosamine sequences. Matsushita-Oikawa H, Komatsu M, Ida-Tanaka N, Sakagami H, Kanamori T, Matsumoto I, Seno N, Ogawa H. Glycobiology 2006;16 (10):891-901.

◆研究内容

植物の新規血球凝集素を発見することができた。耐酸性で、100℃10分間の加熱にも耐える極めてめずらしい性質をもつことが判明した。この凝集素の精製、構造決定、その他の性質（特に、この凝集素の糖鎖認識機構）を解明するための実験を行っている。この植物は食品としても知られている。この食品を加熱処理後に食した時に想定される、①唾液ムチンとの反応性はあるのか、②胃酸酸性化で可逆的に不活性状態となり胃を通過して腸に達した時に遭遇する腸管壁ムチンとの反応性はあるのか、③腸管内細菌への反応性はあるのか等の新たな検討課題が考えらる。

◆教育内容

学部では、主として生化学関連の基礎的および専門的な内容を紹介する授業および実験、ならびに化学の基礎実験の指導を行った。授業科目は次の通りである。
構造生化学Ⅱ
生体分子機能・認識学
生物化学実験
化学基礎実験
大学院博士前期課程では生化学の専門分野、特に糖鎖関連分野の講義、ならびに演習を行った。
糖鎖分子生物学
生物化学
生物化学演習
大学院博士後期課程では、学位論文の研究の指導を行った。

◆受験生等へのメッセージ

本学は中期目標・中期計画の前文冒頭で『お茶の水女子大学は、学ぶ意欲のあるすべての女性にとって真摯な夢の実現される場所として存在する。すべての女性とその年齢国籍等にかかわらず、個人の尊厳と権利を保障され、自由に己の資質能力を開発し、知的欲求の促すまま自己自身の学びを深化させることを支援する』と説明しています。

若い方の中には『学び→勉強→試験→受験→苦痛』という暗い連想をされる方が多いかもしれません。孔子の学問の極意『之を知るは之を好むにしかず。之を好むはこれを楽しむにしかず』は、『知る→好む→楽しむ』という学びの深化を説いています。私は『学び→最高の遊び→至上の楽しみ』というホモ・ルーデンスの連想のとりこになっています。お茶大とのかかわりにより、この連想がすべての女性にとって自己自身の現実の事となり、延いては真摯な夢の実現となることを願っています。